

(様式 3-1)

## 平成 29 年度 プロジェクト研究費研究実績報告書

平成 30 年 5 月 10 日

代表者 鈴木 晴子

研究課題名□	インクルーシブ保育・教育の移行に向けた保育者養成カリキュラムの開発
研究期間	平成 29 年 4 月 1 日 ~ 平成 30 年 3 月 31 日
共同研究者	潮谷 恵美 ・ 山田 陽子 ・ 権 明愛
<b>1. 今年度の研究概要</b>	
<p>2012年の児童福祉法改正により障害児支援の強化へと進み、2014 年には障害者権利条約に批准し、インクルーシブ保育・教育への模索が始まっている。日本においても文化的・社会的・経済的困難な特別なニーズを持つ子どもに対応しうる保育者の養成は大きな課題である。このことに注目し、2012年度から継続研究に取り組んでいる。本研究では、保育者養成課程における特別なニーズを持つ子どもに対する知識・技能の習得と専門性の構築過程を検証し、インクルーシブ保育・教育システムの移行に向けた保育者養成カリキュラムの開発を目指す。また、学生が保育者養成課程を卒業すると、インクルーシブ保育・教育を想定した教育を受けていない保育者と現場実践を共にする。現職者に対するインクルーシブ保育・教育に関する研究を行い、現職者のキャリアパスの構築を目指す。よって、本研究では3つの柱を設定した。研究1 教育内容の検討のための保育学生の実態調査、研究2 現職者のキャリアパスの構築、研究3 インクルーシブな環境と保育教育実践の実態調査である。研究1は①保育者養成校入学生への質問紙調査、②資格免許に関わる実習の授業検討、研究2は①現職者を対象にしたインタビュー調査及、②現職者研修を企画運営し、その研修記録を収集、研究3はインクルーシブな環境と保育教育実践の実態調査である。以上のうち、平成24年度からの継続研究は研究1①と研究2①である。研究2①については、2016年3月に保育者養成校を卒業した現職保育者であり、社会人2年目のデータを得た。</p>	
<b>2. 研究の成果</b>	
<p>本研究により確認されたことを以下に記す。</p> <p>研究 1 は①保育者養成校入学生への質問紙調査を実施、②資格免許に関わる実習の効果検討として実習科目と座学の l i n k a g e に注目した授業検討を行った。</p> <p>①保育者養成校入学生への質問紙調査「障害のある子どもとの出会いに関する調査」</p> <p>2012 年度からの継続研究で得られた結果と同じ傾向であり、質問紙調査研究対象者の多くが、保育所・幼稚園から高等学校までの過程で障害児と出会っていることがわかった。</p> <p>②資格免許に関わる実習の効果検討</p> <p>実習科目と座学の l i n k a g e に注目した授業検討を行った。焦点を当てた科目は、「子ども家庭福祉」、「社会的養護・内容」及び実習指導である。「子ども家庭福祉」においては、今日的課題と幼児教育との接点を整理し、子どもの暮らしに目を向けるための授業展開を検討した。「社会的養護・内容」と実習指導については授業検討にとどまり、授業展開の工夫が学生の習得状況に与える影響の検証が課題として浮かんだ。</p> <p>研究 2 は①現職者を対象にしたインタビュー調査、②現職者研修を企画運営である。</p> <p>①現職者のキャリアパスの構築に向けた現職者を対象とした聞き取り調査</p> <p>2014 年度から継続研究している 2016 年 3 月に保育者養成校を卒業した現職保育者 6 名に実施した。社会人 2 年目となり 1 年目に比べて、クラス運営の難しさを一様に述べていた。また、障害のある子どもへの十分なかかわりがとれなかったことややかかわること、理解することの難しさを述べる発言が目立った。どの対象者も昨年度に比べ保育における葛藤が多く語られていた。この点について解明していきたい。</p>	

## ②現職者研修を企画運営

保育所を除く児童福祉施設の現職者研修の際に、キャリアパスを意識した講義展開を行い、プレリサーチに着手することができた。今後発展させていきたい。

研究3はインクルーシブな環境と保育教育実践の実態調査を計画したが、障害のある子どもを積極的に受け入れている幼稚園や乳児院・児童養護施設等との接点は取れているものの、研究データを収集するには至らなかった。

## 3. 研究成果の公表実績・予定（年月日、方法）

### （1）研究成果の公表実績

本研究は2012年度からの継続研究である。平成29年度は以下において研究成果の発表を行った。

- ・学会ポスター発表 2件を行った。

日本特殊教育学会研究大会

「障害のある」と子どもと「ない」子どもが共に過ごすとは

—保育・教育の場で保育実践する社会人保育者1年目の語りから—

日本保育者養成教育学会

「科目「社会的養護・内容」と実習指導の連続性ある授業展開の検討」

- ・平成29年度の本学の紀要論文集（増版含む）に投稿をし、2件受理された。

1件目タイトル「インクルーシブ保育に向けた保育者の養成・育成と課題」

2件目タイトル「子どもの暮らしに目を向けるための授業展開に関する一考察  
～科目「子ども家庭福祉」に注目して～」

### （2）研究成果の発表予定

・平成30年6月頃に障害のある子どもとの出会いに関する調査VI 2017年度報告書の刊行する予定である。

・平成30年9月に開催される日本特殊教育学会及び日本保育者養成教育学会にて成果報告を行う予定である。

・平成30年度の本学の紀要論文集にエントリー予定である。その他、学会誌投稿にエントリーする予定である。